



令和 6 年度 施設の自己評価

【記入方法】各項目の総合評価（A、B、C、D）の欄に○をつけてください。

A…理解して十分に取り組んでいる C…理解が不足し十分に取り組んでいない

B…概ね取り組んでいる D…取り組めていない

項目	内 容	評 価				意見・改善案
		A	B	C	D	
園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育、保育のねらい、内容が総合的に展開されるよう編成されている	○				全体の計画や理念、方針は明文化されていて職員間での共有をしている。リーダー会議・ブロック会議・職員会議・HIROKOMETHOD・全体の計画・年間指導計画や指導案についての作成・話し合いを行っている。期ごとに教育保育計画や行事が理念や方針に沿った実践ができているかを確認している。
	全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を全保育者等が持っている		○			
	指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している	○				
	子どもの発達状況、月や期の目標、教育、保育の実態について職員間で話し合う機会を設けている		○			
	就学先の小学校へ子どもの育ちを支える資料を確実に送付し、情報共有を図っている	○				
子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している	○				全国保育士会倫理綱領・児童憲章・個人情報保護マニュアル・NG用語虐待マニュアル等とそれに基づいた園内外の研修に取り組んでいる。毎日の昼礼・毎月の職員会議では子どもの様子や気になる事等を話し合い共通理解をしつつ、関係機関との連携を継続していく。延長保育に携わる職員も多くなるので、全体で周知出来るようにしている。不適切保育への対策は引き続き重点として啓発や学びの機会を設けていく。
	保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない	○				
	長期欠席の子どもの状況把握をしている	○				
	子どもの様子で気になることは関係機関に報告している	○				
	個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している	○				
教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている		○			幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領保育所保育指針を十分に理解し向上心を持って教育・保育に取り組んでいる 幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針・全体的な計画・経営理念・経営ビジョン・教育保育目標・保育方針を保護者に伝え、保護者面談・食育活動・保健計画等に基づき取り組んでいる。行事後のアンケートや1年に1回行う保護者アンケートでは満足度99％であったが、いただいたご意見・要望に対して真摯に受け止め、よりよいものに改善していく努力をしている。
	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領保育所保育指針を十分に理解し向上心を持って教育・保育に取り組んでいる		○			
	子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている		○			
	社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている		○			
	教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができている		○			
	保育者等の自己評価結果に基づいた園長と職員の話し合いを実施している		○			
	利用者（保護者）の意見を聞き、改善に努めている	○				
教育・保育計画	全体的な計画、教育課程やその他の計画は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育の「ねらい」「内容」が総合的に展開されるよう職員の参画のもとに作成している編成されている	○				保育教育プログラムのHIROKOMETHODの実践やICTツールの活用は大切な柱として位置づけ継続して行った。園で実施した大きな行事では、3～5歳児クラスでは教育内容を発表する「学習発表会」、0～5歳児クラスでは歌やダンスや劇でお子様の育ちを発表する「クリスマス発表会」を開催した。実際に保護者にご覧頂き、園での教育・保育プログラムが伝えられるように内容を構成し、概ね良い感想や満足を得られた。園の公式LINEの導入をし、園内外の繋がりと情報発信の強化に繋がった。SDGsの取組みは、毎年の積み重ねの内容に今年度のテーマを加えて5年目を迎えたので、1つの節目としてこれまでの事を見える形にまとめた。今年度も関係機関との連携やフリーパブリシティに積極的に取組み、園だけでなく社会や誰かの為に貢献できた。引き続き企業とのコラボレーション企画では、株式会社コーセーのスキンケア商品が完成した事に喜びを感じつつ、園でも独自にDEAR CHILD SKINプログラムを継続した。これらを経て卒園する子どもが接続する小学校と、学校関係者評価や交流、要録の送付等で引き続き連携していく。
	全体的な計画（教育課程やその他の計画を含む）をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者が持っている		○			
	指導計画を作成するにあたっては、一人一人の子どもの発達過程や状況、クラスの実態について、職員の共通認識のもとに作成している	○				
	一人一人の子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている		○			
	就学先の小学校へ、子どもの育ちを支え指導要録を確実に送付し、情報共有を図っている	○				

社会福祉法人高砂福祉会

たかさごSCHOOLおおたかの森

令和7年3月31日

項目	内 容	評 価				意見・改善案
		A	B	C	D	
環境	保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている	○				年齢ごとの子どもたちにあった遊びを設定しているが、一人ひとりの成長発達にあわせた遊びまでの提供により創意工夫をしていく。今後も、職員間でも話し合いながら環境設定を向上できるようにしていきたい。整理整頓が不十分と感じられる点は担当を定めて適切な状態が維持できるようにする。
	各部屋は整理整頓され、雑然としていない		○			
	各部屋には、一人一人の成長発達を考慮した遊びを準備している		○			
愛着形成	0～2歳児は一人一人の成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている	○				全体の計画・年間指導計画・乳児個人計画・児童表・日々の記録等を用いて、子どもの行動や様子・興味関心を記録している。適時に振り返りながら成長発達や課題を把握している。
	保育者は一人一人の思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている		○			
	3歳以上児では子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している	○				
健康・安全	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる		○			緊急時、災害時対応マニュアル・SIDSチェック・アレルギー対応・保健計画・感染症マニュアルによる研修・健康チェック表・検診報告・遊具点検チェック・緊急時職員体制・緊急時フローチャート・避難訓練・BCP・学校安全計画等での対応をしている。今後も継続的に具体的に取り組みを行う。園が居心地の良い、より良く成長できる場所であるよう情緒の安定に配慮をし、子どもの生活リズムを理解して頂けるように保護者へ伝えていく。手洗い、消毒、換気、健康観察、玩具消毒等の感染症対策を継続的に行う。環境や状況に合わせて、丈夫で健康な身体づくりを推進する。
	アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している	○				
	子ども一人一人の生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている		○			
	定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している	○				
	子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる	○				
	保健（衛生管理・感染症対策等）に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している	○				
	家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる		○			
	施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている	○				
	緊急時にも対応できる職員体制が整っており、役割分担が決まっている	○				
幼保小連携	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している	○				児童票・園児指導要録・小学校接続計画等をより効果的に活用する。
	0～1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している		○			
	記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関（地域の保健センター、臨床心理士等）の助言を受けている	○				
特別支援	子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている		○			行政との連携・特別支援児年間計画・面談相談・外部機関と連携を持ち、療育施設の園訪問を依頼または積極的に受け入れて共に子どもの成長を促す。教育支援計画を作成し継続して子どもの記録をしつつ振り返りと個性の尊重に繋げている。面談等を通じて、園での考えや方針を具体的に伝え保護者や職員と連携している。
	第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている	○				
と保護者した家庭子育て支援地域	地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭を関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している		○			保護者アンケート・行事後アンケート・子育て支援イベントアンケート等の回答からより良い行事イベントとして活かしていけるよう取り組んでいるが、よりニーズにクロージングした育児支援やプログラムを提供していく。園で取り組んでいる内容を、発信することにより注力してきたが、何のために、何に良いのかという、「なぜ」をつたえる機会の設定や、資料、掲示物といった目に見える形にする工夫を職員で協力して取り組んだ。